

## 平成 22 年度ニホンジカ個体数調整実施状況

## 1. 捕獲目標頭数について

第 2 期大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（計画期間平成 19 年度～23 年度）では、緊急対策地区の目標生息密度を約 10 頭/km<sup>2</sup>（71 頭）に設定し、早期（2～3 年）に目標生息密度に低減させることを目標として個体数調整を実施してきた。平成 21 年度までの捕獲実績を踏まえてシミュレーションを行うと、目標達成を目指すためには表 1 のようになる。そのため、平成 22 年度は 70 頭を目標に個体数調整を実施中である。

表 1 平成 22 年度以降の捕獲目標および捕獲実績

年度	平成22年度以降捕獲目標	捕獲実績	実績に基づくシミュレート生息数(捕獲後)	糞粒法に基づく推定生息数(秋期)
平成18年度				221
平成19年度		29 (19)	188	188
平成20年度		49 (24)	192	136
平成21年度		89 (36)	138	179
平成22年度	70(30)	62 (30) ※	86	
平成23年度	25( 5)		70	

( ) : メス内訳、1 歳以下を除く

※ : 平成 22 年度の捕獲実績については 9 月末日時点

## 2. 実施地域

奈良県吉野郡上北山村大字小椽（東大台）（図 1 参照）

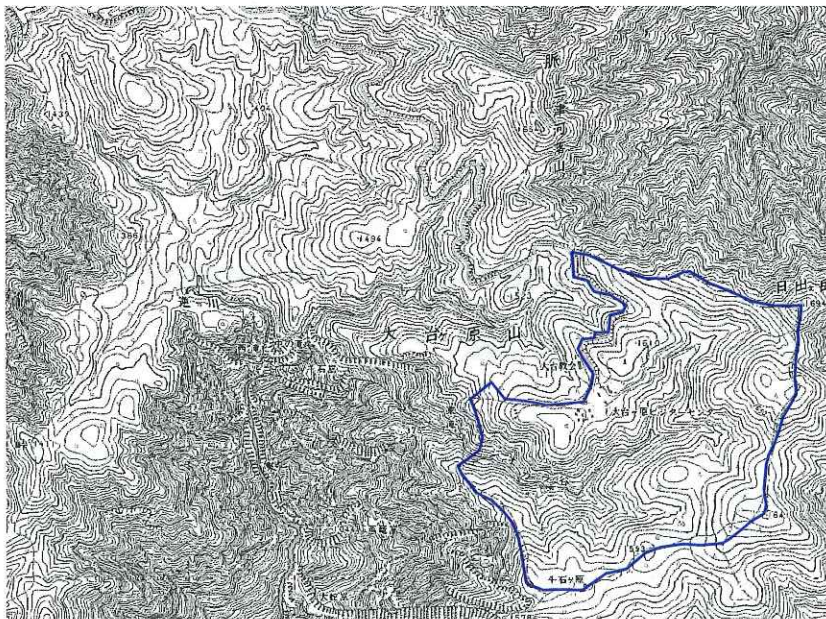


図 1 個体数調整実施場所（青線の枠内）

### 3. 捕獲手法

目標頭数を達成するために定めた平成 22 年度の個体数調整実施予定は表 2 の通りである。

表 2 平成 22 年度の個体数調整実施予定

手法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
くくりわな	←								→
装薬銃	↔								↔
その他 (アルパインキャプチャー) (麻酔銃)	←								→

この実施予定に基づき、これまで 3 回の捕獲作業を実施した。実施期間および実施日数は表 3 の通りである。

表 3 個体数調整実施状況

実施期間		捕獲実施日数			
		くくりわな	装薬銃	アルパイン キャプチャー	麻酔銃
第一回	4月9日～4月22日	14	2	-	-
第二回	5月31日～6月17日	18	-	15	14
第三回	7月28日～8月6日	10	-	-	3

※：くくりわなおよびアルパインキャプチャーは設置日を含む

※：第一回の実施はドライブウェイ閉鎖期間

#### (1) くくりわな

##### ①設置方法等

###### ・第一回

わなの種類：シシキラー（写真 1）

モニタリング：シカの警戒状況を確認するため、くくりわな設置場所のうち 5 か所に赤外線自動撮影ビデオカメラを設置。

見回り：毎日 1 回の見回りを早朝に実施。

###### ・第二回、第三回

わなの種類：シシキラー、オリモ式 OM-30 型（写真 2、以下「オリモ式」という。）

モニタリング：第一回に同じ。

見回り：毎日 1 回の見回りを早朝に実施。利用者が多い場合には夕方にも実施。

##### ②わなの設置場所と基数

###### ・第一回

わなの設置場所を 14 か所選定し、それぞれに 3～7 基のくくりわなを設置した。

・第二回

わなの設置場所を第一回の 14 か所のうち 7 か所選定し、それぞれに 2~8 基のくくりわなを設置した。

・第三回

わな設置場所を第一回の 14 か所のうち 4 か所選定し、それぞれに 4 基のくくりわなを設置した。

また、4月の装薬銃を実施する期間は、朝の見回り時にシカを警戒させる恐れがあるため、上道、中道沿いのわなにすべてストッパーをかけて作動しないようにした。

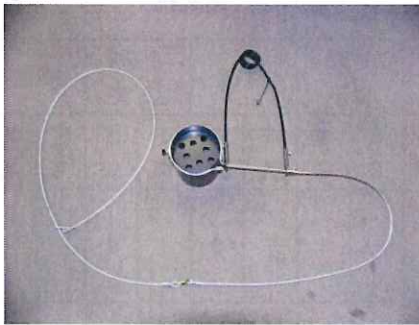


写真1 シシキラー

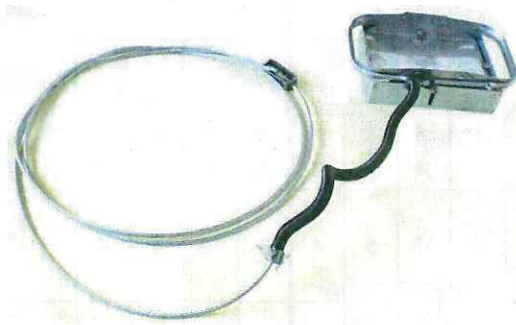


写真2 オリモ式

(2) 装薬銃

①作業従事者

上北山猟友会 4月19日11名(内猟銃10丁) 4月21日9名(内猟銃8丁)

②実施方法

- ・ライフル銃、散弾銃(非鉛弾を使用)
- ・①上道~日出ヶ岳~正木峠、②中道~正木ヶ原~牛石ヶ原、③川上辻~駐車場~山の家の3グループに分かれて実施。

③安全対策

- ・保険の加入。
- ・注意標識を設置するとともに、捕獲実施の場所、日程について関係機関に周知した上で実施。
- ・無線機で連絡を取り合いながら実施。

(3) その他

麻醉銃およびアルパインキャプチャーによる捕獲を実施。

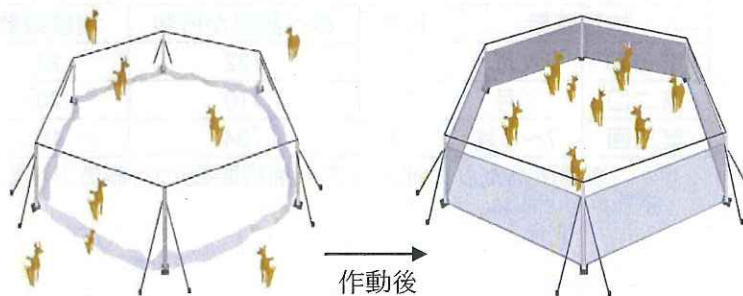


図2 アルパインキャプチャー

#### 4. 個体数調整実施結果

##### (1) 捕獲頭数

平成 22 年度 9 月末日までの捕獲結果を表 4 に示した。捕獲頭数は合計 62 頭で、内訳はくくりわなで 53 頭（成獣オス 6 頭、成獣メス 27 頭、1 歳以下 20 頭）、アルパインキャプチャーで 4 頭（成獣オス 2 頭、1 歳以下 2 頭）、装薬銃で 5 頭（成獣オス 1 頭、成獣メス 3 頭、1 歳以下 1 頭）であった。

表 4 平成 22 年度捕獲結果 (9 月末日時点)

実施期間		捕獲頭数				捕獲手法															
						くくりわな				アルパイン キャプチャー				装薬銃				麻酔銃			
		成獣		1 歳 以下		成獣		1 歳 以下		成獣		1 歳 以下		成獣		1 歳 以下		成獣		1 歳 以下	
オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス	オ ス	メ ス		
第一回	4 月 9 日～ 4 月 22 日	4	15	5	4	3	12	4	4	-	-	-	-	1	3	1	0	-	-	-	-
第二回	5 月 31 日～ 6 月 17 日	3	12	3	6	1	12	2	5	2	0	1	1	-	-	-	-	0	0	0	0
第三回	7 月 28 日～ 8 月 6 日	2	3	2	3	2	3	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0
小計		9	30	10	13	6	27	8	12	2	0	1	1	1	3	1	0	0	0	0	0
成幼別計		39		23		33		20		2		2		4		1		0		0	
手法別計						53				4				5				0			
合計		62				62															

##### (2) 捕獲効率

捕獲手法別の捕獲効率を表 5、表 6、表 7 にそれぞれ示した。捕獲効率はくくりわなについては設置か所数、アルパインキャプチャーについては設置基数、装薬銃については作業従事人数（銃の丁数）で算出した。

表 5 くくりわなによる捕獲効率

捕獲時期	日数	のべ設置か所数	捕獲頭数	捕獲効率
第一回	4 月	13	23	0.17
第二回	6 月	17	20	0.18
第三回	7～8 月	9	10	0.29

※場所あたりの捕獲効率＝捕獲頭数/のべ設置か所数

表 6 アルパインキャプチャーによる捕獲効率

捕獲時期	日数	のべ設置基数	捕獲頭数	捕獲効率
第二回	6月	14	4	0.29

※捕獲効率＝捕獲頭数/のべ設置基数

表 7 装薬銃による捕獲効率

捕獲時期	日数	のべ人数(丁)	捕獲頭数	捕獲効率
第一回	4月	18	5	0.28

※捕獲効率＝捕獲頭数/のべ人数(丁)

(3) くくりわな種類別捕獲頭数および捕獲効率

今年度第二回の捕獲より、シシキラーに加え、オリモ式わなを使用した。各わなの捕獲頭数、捕獲効率を表 8、表 9 に示した。捕獲効率は、第二回ではシシキラーとオリモ式で大きな差はなかった。第三回の捕獲効率は、シシキラーで 0.059 であったのに対し、オリモ式では 0.082 であった。

表 8 くくりわな種類別の捕獲頭数

捕獲期間		わな種類	成獣 オス	成獣 メス	1歳以下 オス	1歳以下 メス	合計
第二回	6月	シシキラー	1	5	1	1	8
		オリモ式	1	7	0	4	12
第三回	7～8月	シシキラー	1	1	1	0	3
		オリモ式	1	2	1	3	7

表 9 くくりわな種類別のわなあたり捕獲効率

捕獲期間		わな種類	のべ設置 わな基数	捕獲効率
第二回	6月	シシキラー	220	0.036
		オリモ式	354	0.034
第三回	7～8月	シシキラー	51	0.059
		オリモ式	85	0.082

※わなあたりの捕獲効率＝捕獲頭数/のべ設置わな基数

(4) 場所別捕獲頭数および捕獲効率

1) くくりわな

くくりわなによる捕獲地域を中道、上道、ビジター下、山の家、川上辻周辺の 5 か所に分けて、それぞれの地域における捕獲頭数を表 10 に、捕獲効率を表 11 に示した。また、捕獲個体のメス/オス比を表 12 に示した。

表 10 くくりわなによる地域別捕獲頭数

捕獲時期		捕獲エリア					合計
		中道	上道	ビクター下	山の家	川上辻周辺	
第一回	4月	4	0	3	10	6	23
第二回	6月	4	-	-	9	7	20
第三回	7~8月	4	4	-	2	-	10
合計		12	4	3	21	13	53

表 11 くくりわな設置か所あたりの地域別捕獲効率

捕獲時期		中道		上道		ビクター下		山の家		川上辻周辺		計	
		のべか所数	捕獲効率	のべか所数	捕獲効率	のべか所数	捕獲効率	のべか所数	捕獲効率	のべか所数	捕獲効率	のべか所数	捕獲効率
第一回	4月	34	0.12	16	0.00	24	0.13	26	0.39	32	0.19	132	0.17
第二回	6月	27	0.15	0	-	0	-	32	0.31	51	0.12	110	0.18
第三回	7~8月	8	0.50	8	0.50	0	-	18	0.11	0	-	34	0.29
合計		69	0.17	24	0.17	24	0.13	76	0.28	83	0.16	276	0.19

※場所あたりの捕獲効率=捕獲頭数/のべ設置か所数

表 12 くくりわなによる捕獲のメス/オス比

年度	捕獲時期		捕獲頭数		メス/オス
			オス	メス	
H22	第一回	4月	3	12	4.0
	第二回	6月	2	12	6.0
	第三回	7~8月	2	3	1.5
	合計		7	27	3.9

※1歳以下を除く

- くくりわなによる捕獲頭数は第一回および第二回において山の家、川上辻周辺で多く、中道では少なかった。また、上道では捕獲されなかった。(表 10)
- 第三回において、中道および上道で捕獲が多く、山の家で少なかった。(表 10)
- わな設置か所あたりの捕獲効率は、時期を追うごとに山の家周辺で低下したが、中道および上道では高くなった。(表 11)
- 中道における設置か所あたりの捕獲効率は時期を追うごとに上昇した。(表 11)
- 捕獲のメス/オス比はすべての時期で1を超えたが、7~8月に大きく低下した。(表 12)

2) 装薬銃

装薬銃による捕獲頭数と捕獲効率を表 13 に示した。また、捕獲作業時に目撃回数をカウントしたものを表 14 に示した。

表 13 装薬銃による捕獲の捕獲効率および地域別捕獲頭数

捕獲時期	日数	のべ人数 (丁)	捕獲頭数	捕獲効率	捕獲エリア	
					川上辻周 辺	その他
第一回	2	18	5	0.28	5	0

表 14 装薬銃による捕獲実施中の捕獲以外の目撃回数 ( ) 総目撃頭数

日付	グループ						合計	
	① ※		② ※		③ ※		捕獲 エリア内	捕獲 エリア外
	捕獲 エリア内	捕獲 エリア外	捕獲 エリア内	捕獲 エリア外	捕獲 エリア内	捕獲 エリア外		
4月19日	0(0)	1(8)	1(2)	1(4)	0(0)	1(3)	1(2)	3(15)
4月21日	0(0)	0(0)	2(4)	3(5)	0(0)	0(0)	2(4)	3(5)
合計	0(0)	1(8)	3(6)	4(9)	0(0)	1(3)	3(6)	6(20)

※①上道～日出ヶ岳～正木峠、②中道～正木ヶ原～牛石ヶ原、③川上辻～駐車場～山の家

- 中道、上道、日出ヶ岳～正木ヶ原～牛石ヶ原での捕獲頭数は0頭であった。
- 目撃回数については、3グループで合計9回あった。グループ①の正木峠で最大8頭の群れの目撃があったほか、グループ②の牛石ヶ原での目撃が数回あった。
- 目撃のほとんどが三重県側であり捕獲エリアには入ってこなかった。

5. まとめ

くくりわなによる捕獲効率は時期によって高い場所と低い場所が変化した。くくりわなによる捕獲のメス/オス比は、4月から6月にかけてメスの比率が高く、7月以降はメスの比率が低下した。

第一回の装薬銃による捕獲地点は5頭全てが川上辻周辺であり、これまで主に捕獲してきた日出ヶ岳や牛石ヶ原周辺では捕獲されなかった。装薬銃の実施時、川上辻周辺以外の場所では、「シカがいない」「シカはいても三重県側である。たまたま捕獲エリア内においても射程距離に入っていない」という従事者からの報告もあった。